

## 学習者の情意領域を意識した活動(2) —アンケート調査結果と共に—

西郷英樹

### 要旨

日々の日本語の授業に学習者の情意に訴えかけるような要素を積極的に取り入れることでクラス活動がより「実りある」<sup>(1)</sup>ものになると実感している。本稿では、実際の授業で用いられた情意を意識した活動に対して学習者がどのような考えを持っているかを調査するためにアンケートを実施し、その結果を考察した。そして、改良の余地はあるものの、活動が情意・認知両側面において良い影響を与えていると多くの学習者が考えていることが分かった。

【キーワード】 日本語教育 情意 認知 学習意欲 学習効果 活動例

### 1. はじめに

拙論『学習者の情意領域を意識した活動—学習者の想像力を生かす—』(2007)では、学習者の認知領域だけでなく情意領域をも意識した活動の重要性を論じ、筆者が授業で行っている活動例を紹介した。本稿では、実際に活動を1学期間体験した学習者へのアンケート調査結果と共に、この活動の長所、短所および改善点を考えていきたい。

### 2. 情意領域を意識した活動とは

西郷(2007)で、情意活動を意識した活動を学習者が自分自身の内面世界(経験、価値基準・判断、信念、感情、興味、願望など)に向き合い、そこで触れたものを目標言語で表現することと定義した。以下、実際に用いた例をいくつか紹介する。なお活動の提示はパワーポイントのスライドをアニメーション機能とともに用いている。



図 1

図1は日本語初級文型「~たり~たりする」の授業で用いた1枚である。このスライドの絵から台の上に乗っている人が亡くなった人を天国に送るか地獄に送るか決定権をもっていることが分かる。学習者は生きている間どのようなことをすれば天国に行けるか、あるいは地獄に行かされるかという自分の価値観を「~たり~たりする」という表現を通して述べていく。

図1のような架空・空想の場面だけではなく、現実にも起こり得る場面での練習も活動に含まれる（図2参照）。



図 2

またより内省的要素の強いもの（図3）からインターアクション的要素が強いもの（図4）がある。

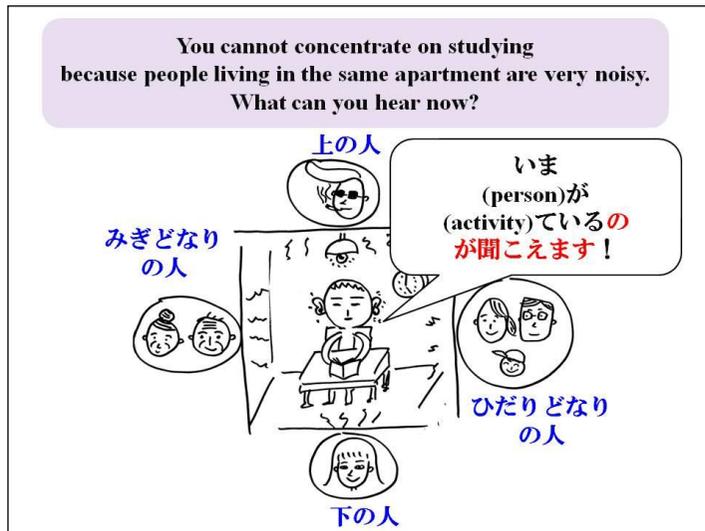


図3

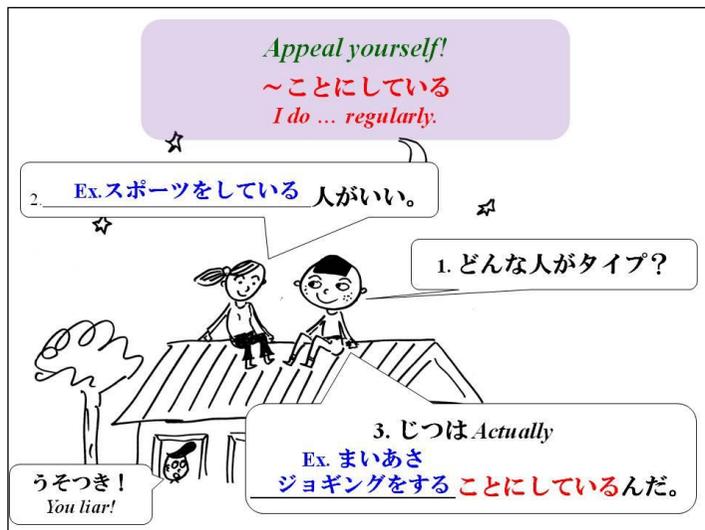


図4

学習者は提示された場面を見て、答えを創り出して答えていく。そして教師や他のクラスメートはその答えに対してコメントがあれば自由に述べていく。

このような活動は学習者の目を生き生きとさせるにはどうしたらよいのかという筆者の日々の試行錯誤の中で作り上げてきたものであるが、この活動の主な特徴は、

学習者の「あたま」(認知領域)だけでなく、学習者の内面世界である「こころ」(情意領域)にも働きかけようと意識的に考えられたところにある。論理的思考能力を持った存在(考える存在)としてのみ学習者を捉えるのではなく、それぞれが異なる内面世界を持った存在(感じる存在)という事実にも意識的に焦点を当て学習意欲を高める(=学習者の目を生き生きとさせる)ねらいがあった。<sup>(2)</sup>

### 3. アンケート調査

#### 3.1 調査内容

2007年度秋学期の初級日本語コース(15週間)を通して学習者の情意を意識した活動を授業の一部として行った。学期終了前のクラス内で学習者39名(短期交換留学生/年齢19歳~22歳/女24名・男15名/国籍:北米32名・欧州4名・アジア2名)にアンケート調査(約15分)を行った。アンケート用紙には無記名で活動に対するコメントを書くよう依頼した(図5参照)。今回はこの活動に対する初めてのアンケート調査ということもあり、どのような点に学習者がコメントをするか調べるために、あえて選択肢を与えずに自由回答形式とした。

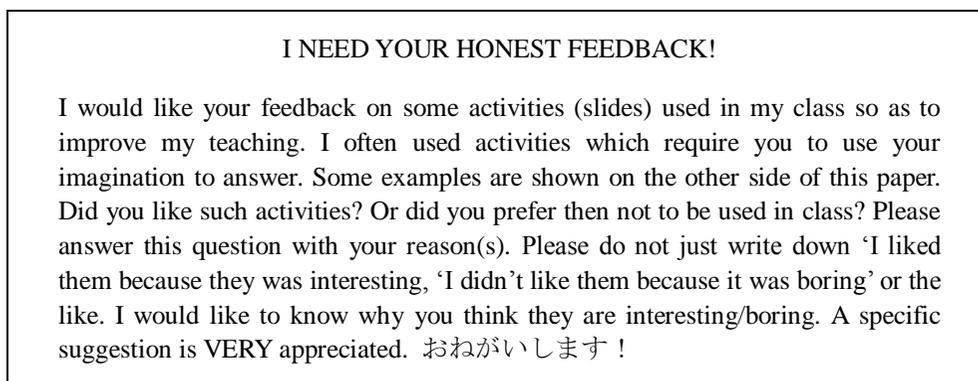


図5

アンケート用紙の裏には、どのような活動があったか思い出してもらうため用いた活動例を6例載せた。

#### 3.2 アンケート調査結果の概観

39名の回答者のコメントから、活動に対して肯定的なコメントだけを記した学習

者が17名、否定的なコメント（改善点含む）のみを記した学習者1名、肯定・否定両方記した学習者が21名であった。明かに活動とは無関係のコメントは分析から除外した。

次にすべての学習者の回答から意味のまとまりを抽出した結果、121の意味のまとまりを得ることができた。その内、肯定的なものは95（78.5%）で、改善点を含めた否定的なものは26（21.5%）であった。この結果から改善する余地はあるものの概ね好意的に受け入れられていることが分かった。

次にそれぞれの意味のまとまりが何に関するものかという観点から「活動全般について」「スライドの絵について」「提示場面について」「活動の自由度について」「他の活動との関連について」「想像力について」「活動の進め方について」「クラスおよびクラスメートについて」「登場人物について」に分類した（表1参照）。なお、前述したように自由回答であったため、複数の項目に当てはまるような意味のまとまりも複数見受けられたが、より適当だと思われる項目に分類した。

表 1

	肯定的要素	否定的要素	計
活動全般について	33.9% (N=41)	5.0% (N=6)	38.8% (N=47)
スライドの絵について	15.7% (N=19)	0.0% (N=0)	15.7% (N=19)
提示場面について	6.6% (N=8)	5.8% (N=7)	12.4% (N=15)
活動の自由度について	8.3% (N=10)	0.8% (N=1)	9.1% (N=11)
他の活動との関連について	0.8% (N=1)	5.0% (N=6)	5.8% (N=7)
想像力について	4.1% (N=5)	0.8% (N=1)	5.0% (N=6)
活動の進め方について	2.5% (N=3)	2.5% (N=3)	5.0% (N=6)
クラス(メート)について	3.3% (N=4)	0.8% (N=1)	4.1% (N=5)
登場人物について	3.3% (N=4)	0.8% (N=1)	4.1% (N=5)
計	78.5% (N=95)	21.5% (N=26)	100% (N=121)

表中の百分率は小数点第二位を四捨五入

なお、コメントを分解し意味のまとまりで分断してしまうと、コメントの全体像が見えなくなってしまうことは避けられない。そこで参考資料として学習者からのコメントを英文のまま巻末に付録した。

### 3.3 調査結果の詳細および考察

表1のコメント数が多い項目から考察していく。なお、本稿ではそれぞれのコメント数にはそれほどこだわらず、学習者がどのような点についてコメントしているかという点を主に見ていく。

#### 3.3.1 活動全般について (38.8% [N=47])

活動全般に関する直感的・感情的要素の強い肯定的コメントには以下のようなものがあった。

- ・ (6) 面白かった [funny (5) / hilarious (1)]
- ・ (5) 興味を起こさせた [interesting]
- ・ (3) 楽しかった [entertaining (2) / enjoyed (1)]
- ・ (2) 素晴らしかった [excellent (1) / great (1)]
- ・ (1) 良かった [good]
- ・ (1) 好きだった [liked]

コメントの左側の数字はコメント数 (=学習者数) で、学習者が実際にどのような語を用いていたかを必要だと感じた場合のみ [ ] 内に記した。

以下は上のコメントよりも分析的要素の強いコメントで、活動が学習に良い影響を与えたことを表しているものである。

- ・ (8) 有益だった [useful (7) / helpful (1)]
- ・ (1) 良い練習の道具だった
- ・ (1) 文型練習に良い
- ・ (1) 文法が覚えやすくなった
- ・ (1) 文法の強化につながる
- ・ (1) 便利な日本語をたくさん学んだ

日頃の日本語授業でこの活動が学習者の学習意欲を高めていることは実感しているが、このような活動は一般的な日本語の授業ではあまり見られないということもあり、「ただ面白いことを言わせているだけ」「ふざけている」といった印象を持たれやすいのではないかと、言い換えれば、学習者の情意面を考えるあまり、認知面での学習効果がないがしろにしているという回答もあるのではないかと多少の懸念があった。しかし、今回のアンケート調査ではそのような回答は無く、上述のコメントと

これから見ていくコメントから分かるように、認知面にもよい影響を与えたと解釈できるものが多くあった。

またこの活動で「いろいろと考えた」(made me think) という学習者も4名いた。

・(4) いろいろと考えた [made me think]

この回答が意味するところは何だろうか。一般的に日本語教育（もしくは第二言語教育）で必要と考えられる作業は頭を使って求められている答えを（論理的に）導き出すこと、つまり、認知的作業が中心である。このような初めから決まっている答えを求めることが中心の授業では授業内容がどれだけ学習者に関連性があるのか、情意（感情）に訴えているのか、という点はあまり重視されていないのではないだろうか。しかし、情意を意識した活動が学生に求めていることは、外国語としての日本語を用いて求められている命題を作り上げるという認知的作業だけでなく、学習者が自分の内面と交流すること、つまり情意的作業も含まれる。「いろいろと考えた」というのはこの点をも指していると解釈できないだろうか。

以下のように学習意欲の向上に触れているコメントもあった。

- ・(1) 文を考えるのが面白く [exciting] になった
- ・(1) 文法を習いたいという気持ちになった

なぜ文を考えるのが面白くなったのか、なぜ文法を習いたいという気持ちになったのか。この理由の1つに、認知作業を重視する活動と比べ、情意を意識した活動には学習者の内面世界を刺激する要素が多く含まれているからではないだろうか。学習者の内面世界を巻き込んでいく学習過程が学習者自身の「内なる気づき」（田中・田中2003:14）を促し、そこで気づいたことを教師やクラスメートに伝えたいという気持ちや、またその手段である日本語能力を高めたいという気持ちが、徐々に強くなっていくと考えられる。多くの研究で学習意欲と学習能率との因果関係が示されている（辰野2009）ことを考えれば、本稿で扱っているような活動は学習能率の向上という点においても有効であるかもしれない。

活動全般に関する他の肯定的コメントとして、ユーモアや笑いを挙げているコメントもあった。

- ・ (1) ユーモアがあって、例文が面白かった
- ・ (1) ユーモラスでリラックスでき、日本語が話しやすくなった
- ・ (1) 笑いは習ったものを忘れにくくする

上のコメントからユーモアには少なくとも二つの効果があったことが分かる。「日本語を話しやすくした」というコメントを書いた学習者にとって、ユーモアは外国語学習不安を取り除く効果があったようだ。日本語（第二言語）の授業の中で学習者は「発話活動における緊張」（元田 2005 第 5 章）を程度の差はあれ感じているだろう。過度の緊張や不安は自己防衛本能を働かせ、自分の内面世界を外に向かって表現することを拒もうとする力が働いてしまう。それだけではなく、自分自身の内面世界との交流もうまくいかなくなる可能性も高い。そのため本稿で扱っているような活動を行う際、教師は学習者が抱えている緊張や不安に対してより注意を払っていく必要がある。<sup>(3)</sup> 緊張や不安を軽減する方法の 1 つがユーモアや笑いの活用だと考え、筆者は授業にユーモアや笑いを意識的に取り込むように心掛けている。

笑いは学習不安の軽減だけでなく、学んだものを忘れにくくする、つまり記憶の定着を高めるという効果を感じた学習者もいた（3 つ目のコメント）。笑いとは「面白い」と感じる感情の 1 つの表現方法であり、認知領域だけでなく情意領域にも訴えることで始めて起こる現象である。記憶の定着を促進させるものは笑いだけではなく、認知・情意両側面に訴えるものであれば同じことが言えるであろう。これは我々がどのような過去の出来事をよく記憶しているか考えれば納得いくはずである。カナダの教育学者である Egan (2007) は人間の記憶の仕方を次のように述べている。情報をそのまま保管・回復するコンピューターなどとは違い、人間が何かを記憶する時、記憶の対象は記憶する人のその時の感情、思い出、そして意図などに大きく影響されながら形を変えつつ内面世界へ取り込まれていく。言い換えると、記憶する対象物に対して情意領域の働きかけがなければその情報は短期的な記憶としかかなり得ないと言えよう。情意が記憶の定着という点においても有効であるとすれば、学習者の情意により訴えかける授業作りが必要となるだろう。

さらに自分の日本語を操る力を客観的に分析できるようになったとするコメントもあった。

- ・ (1) 自分の日本語を客観的に [critically] 見られるようになったので、効果的だった

この活動では決まった答えなどなく学習者自身が提示場面や指示内容に従って自分の答えを創り出すことを期待されている。そのために、自分の言いたいことが既知の日本語の表現や語彙だけで言えるのか言えないのかということにも向き合う時間でもあると言えよう。

以上、活動全般に関する肯定的なコメントを見てきたが、自分自身の答えを創り上げるのが難しいというコメントが6名から出された。

- ・ (6) 何を言えばよいか難しかった

繰り返しになるが、この活動ではある決まった答えを教師が導くのではなく、学習者は自分自身の答えを創りあげなくてはいけない。そのため、このようなコメントがでてくるのは当然であろうし、決まった1つの答えを導き出すような認知作業重視の学習に慣れた学習者には特に難しいかもしれない。さらには真面目に活動に取り組み、自分の内面世界と真摯に対峙すればするほど難しいと感じるかもしれない。英語教育で自己表現活動を実践する田中・田中（2003:8）も「やりとりする情報にどれだけ生徒自身が関わり、頭を悩ませたかが重要な点」だと述べている。しかしながら教師である筆者も提示する場面設定や指示内容をより学習者の情意に訴えていくもの、言い換えれば想像力を刺激するようなものにしていく必要があることは明かである。

### 3.3.2 スライドの絵について (15.7% [N=19])

スライドの絵に関しては19の肯定的なコメントが得られた。その中の7つが直感的・感情的要素の強いものであった。

- ・ (3) 良かった [good]
- ・ (2) 面白かった [interesting (1)/hilarious (1)]
- ・ (1) 絵は見ていて、楽しかった [fun]
- ・ (1) 好きだった [liked]

スライドに使う絵はペンで紙に描いたものをスキャンしてスライドに貼り付けている。スライドに用いている絵の大部分は大雑把に描かれたものが多い(図6～9参照)。



図 6

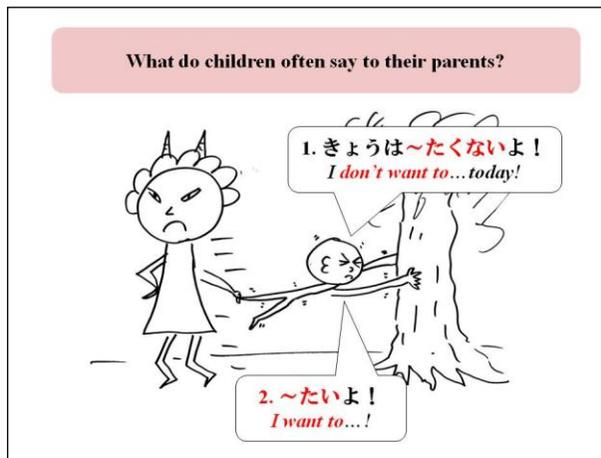


図 7



図 8



図 9

この理由の1つとして筆者の技量も関係しているのだが、それ以上にきれいに描かれた、いわゆるプロっぽい絵よりも手書きの粗雑な絵の方が学習者の興味を引くと日々の教室活動を通して実感しているからである。この素朴さ、粗雑さが味となって学習者にコミカルなイメージを与え、「面白い」「楽しい」などの回答が得られたのではないだろうか。

スライドの絵がクラスに参加する意欲を高めたと解釈できるコメントもあった。

- ・ (1) 面白くて [funny]、活動に興味をもたせてくれた
- ・ (1) 人々を笑わせ、クラスに参加したいという気持ちにさせた
- ・ (1) 面白くて [funny]、クラスを楽しくしてくれた
- ・ (1) クラスを楽しくしてくれたので、良かった [good]

また学習効果の側面でも良い影響があると感じている学習者がいることが分かった。

- ・ (1) 文法が覚えやすくなり、有益だった [useful]
- ・ (2) 絵はスライドに注目をひきつけ、理解向上に役立った
- ・ (1) 絵は学習プロセスを楽しく、また易しくした
- ・ (1) 視覚に訴えるので、記憶に残る
- ・ (1) 日常生活で習った文法を使用するとき、その時の絵がいつも思い出された

Arnold (1999: 267) も学習者の注意を引くような絵や写真などは認知・情意の両側

面に良い影響を及ぼすと述べている。

さらには、教師の教育に対する姿勢について述べているコメントもあった。

- ・ (1) 教師自身が書いた絵から学生に効果的に教えたいと考えていることがわかる
- ・ (1) 多くの面白い [interesting] 絵を書き、学生間のつながりを築こうと努力しているのが分かったので、学ぶのが楽しかった [enjoyable]

日本語教授経験の長い教師であれば皆実感していると思われるが、学習者は教師が授業や学習者に対してどのような考え方をしているかを敏感に感じ取る。<sup>(4)</sup> 今回は良いコメントであったが、その反対のコメントがいつ出てもおかしくはない。授業に対する教師の向上心がなくなった時に、そのようなコメントが出てくるのではないかと思う。

### 3.3.3 提示場面について (12.4% [N=15])

提示場面に関する肯定的なコメントには以下のようなものがあった。

- ・ (1) 内容が分かりやすかった [clear]
- ・ (1) 活動にそれぞれ小さいストーリーがあったので覚えやすかった

学習者の情意に訴えることができるかどうかは、提示する場面や指示に大きく影響される。筆者が心掛けていることは、導入する表現の意味機能を分かりやすく表していること、学習者がすぐに理解できるようなシンプルな場面であること、そしてできるだけ印象に残るものにする、の3点である。もちろんこれはあくまでも理想であるが、これに少しでも近づけるように毎学期改良を加えている。

提示した場面の一例として「～である」の練習の際に使用したスライドを紹介する(次ページの図10)。



図 1 0

この表現の意味機能の1つとして、何らかの目的のためにある動作が行われその結果の状態に焦点を当てる機能がある。このような意味機能が使われる場面として仕事から早く帰ってきた夫が妻を喜ばすために妻の帰宅前に何かをしておくという場面を設定した。この場面で「～である」を使うことによって夫が行った動作の結果のみに焦点を当て、夫が妻のために何かをしてくれたという恩着せがましさを包み隠すことができる。またこの場面では様々な答えが可能であるため、学習者は自分だったら何をしてあげたいか、また何をしてもらったら嬉しいと感じるか、自分の内面世界と交流することで発話を創り上げることになる。この様々な答えが出る場面設定こそ、学習者が自分の個性を主張する場となり、また他のクラスメートの個性に触れる機会となるのである。<sup>(6)</sup>

またストーリーがあって覚えやすいというコメントもあったが、図10のようにシンプルでかつ学習者の情意に訴えかけるようなストーリーを導入表現に織り込むことによって、学習者は登場人物に自分の心理を投影しやすくなり、コメントにもあったように記憶定着に好影響を及ぼすと言えるだろう。

提示場面に関する他の肯定的なコメントとして、場面の非日常性に対するものもあった。

- ・(2) 風変わり [unusual(1) / odd (1)] で、楽しかった [enjoyable]

- ・ (1) 面白くて [funny] で良かった
- ・ (1) 想像的な場面 [imaginative situations] は考えるだけで楽しく [fun] 活動を面白く [interesting] させた
- ・ (1) 極端な場面は想像力を刺激した
- ・ (1) 風変わりな場面で文型を練習するのは有益だった

これらのコメントは非日常的な場面設定が学習意欲を高めたと解釈できる。Tomlinson (1998) は学習者の好奇心、興味、注目を喚起するようなインパクトのある教材の重要性を説いており、インパクトを与える要素の1つとして、一般的に用いられないようなトピック、絵、アクティビティーなどの珍奇性・斬新性 (novelty) を挙げている。

活動の非日常性に対する肯定的なコメントがある一方、否定的なコメントもあった。

- ・ (3) 時々提示場面は現実から離れすぎている
- ・ (2) もっと実用的な文型 (場面) の使い方も練習したほうがよかった

上述のコメントは非日常的な場面と実際に起こり得る場面との割合に問題があると指摘している。このアンケート調査を行った時は本稿で考察しているような活動を始めて間もない時であったので、活動自体の種類も現在と比較して少なく、またコメントにあるように非現実的な場面と現実的な場面との割合に問題があったことは否めない。現在、この点は徐々に改善されつつある。以下、その例を1つ紹介したい。

図11は推測を表す初級日本語表現「～かもしれない」でを使用したスライドである。



図 1 1

上のスライドはアンケート調査をする前から使用していたものであり、母親のお腹の中にいる胎児が外界について推測しているという場面設定である。このスライドで学習者から多くの発言を引き出すことができたが、明かに現実では起こり得ない場面である。

以下の2枚はアンケート後に新たに付け加えたものである。

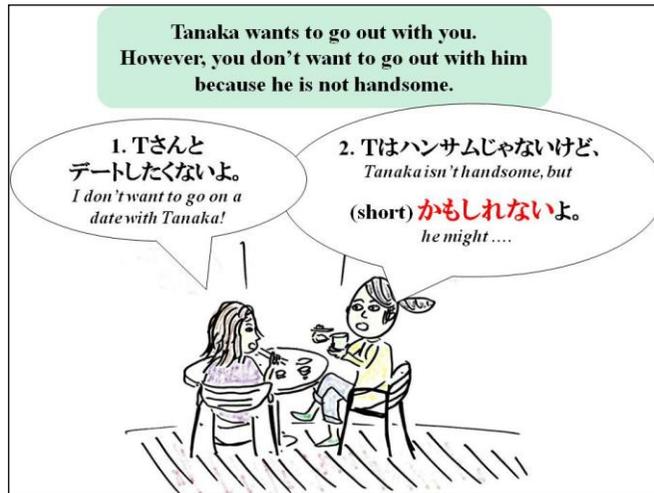


図 1 2

図 1 2 の場面は、田中さんからデートを誘われているがハンサムではないのであまり気が進まないという女性と、ハンサムではないという欠点を上回る何かを持っている可能性を示唆する女友達という設定である。



図 1 3

図13は飲み会の翌日何人かの友達が口を利いてくれなくなったが、酔っ払って何も覚えていない男子学生がその理由を推測しているという場面である。図12と13は現実世界でも起こり得る場面であり、学習者の反応も非常によく多くの発言を引き出すことができた。

提示場面に関して以下のような否定的な意見もあった。

- ・(1) いくつかの提示場面はあまり好きではなかった [disturbing]

コメントからどの場面が好きではなかったのか知る術はないが、学習者の情意に訴えかけようとしたあまり「～のに」の導入・練習時に投身自殺の場面(図14参照)を用いたことがある。

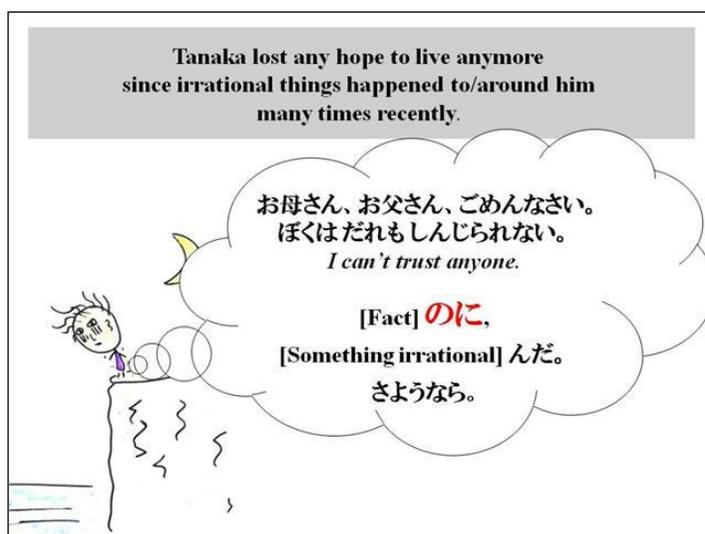


図14

「～のに」の後件には主に話者の不平不満が表れる。この不平不満を強調するために自殺という場面を用いたのだが、その扱い方が倫理的に不適切だったので違う場面に差し替えた。その後は場面設定を慎重に行うように心掛けている。

さらに、提示場面に関して以下のようなコメントもあった。

- ・(1) 面白い [funny] 場面が多くて、どの文型がどの提示場面とつながっていたか覚えられなかった

このコメントは似通った場面が多すぎるとも解釈できるかもしれない。どうしても同

じ人間が様々な場面を考えようとしても、似たものになることが多々ある。また異なる場面を提示しても面白い (funny) ものだけであれば、マンネリ化してしまい、教材の持つインパクトも半減するだろう。場面の種類の幅を広げていくことは今後の大きな課題の1つである。

### 3.3.4 活動の自由度について (9.1% [N=11])

活動の自由度についての肯定的なコメントは以下のようなものがあつた。

- ・ (2) 自由度が高い
- ・ (2) 自分自身の答えが言える
- ・ (1) 自分が知っている日本語をいろいろな場面に応用できるので勉強になる
- ・ (1) クラスで習ったことを応用しやすい
- ・ (2) 既習のものを取り入れて考えるようになる
- ・ (1) いろいろな単語が使えるので良かった
- ・ (1) 試行錯誤を繰り返しながら導入文型を練習できる

上のコメントは大きく3つに大別できる。1つ目は自分自身の命題 (自分の言いたいこと) を自由に創り上げることができる自由度である。この自由度を他の言葉で置き換えると、自己表現度と言えるかもしれない。自己表現を田中・田中 (2003) は自分の思いや考えを伝えること、自分の知っていることや考えていること、あるいは自分の気持ちを他者に表現することと定義している。筆者はこの定義よりも自己表現という言葉をより広く捉えている。図15を見てみよう。

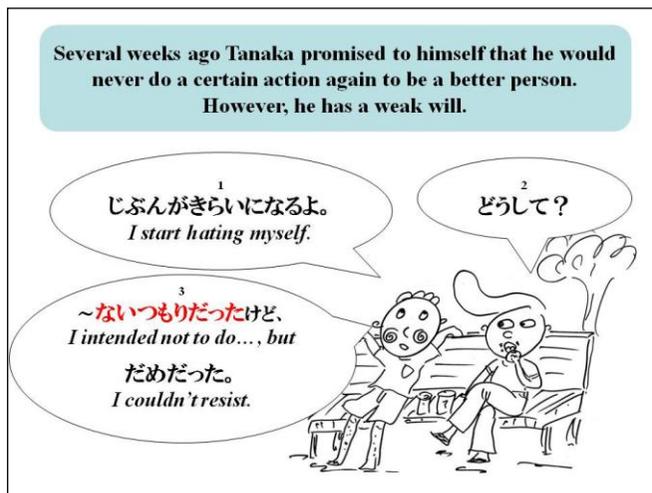


図 1 5

上のスライドは田中という人物の発話である。一般的に考えられる自己表現とは学習者自身が文の主語となるであろう。この点からすると図15のような練習は自己表現には当てはまらないとも考えられる。しかし、主語が誰であれ、学習者がその人の視点に立って浮かんできた考えや思いを表現する活動を筆者は広い意味での自己表現と捉えている。

2つの自由度とは、より学習的側面の強いもので、既習の日本語の知識（表現・語彙）を自由に取り入れることができる自由度である。決められた表現や語彙を用いる練習も大切であるが、既習の語彙や表現を学習者自らが記憶から引っ張り出し組み合わせる機会を与え続けていくことも真のコミュニケーション能力獲得のためには不可欠だと考える。

しかし、この2つめの自由度に関して、以下のような否定的なコメントもあった。

- ・(1) 様々なレベルの学生がいるため、未習の語彙を使い、理解できない時があった

教室には様々な教材を用いて日本語を学んできた学習者がいる。そのため、当然のことながら既習の語彙や表現が異なる。また教材以外の語彙や表現を様々な媒体を通して学ぶ機会もあるだろう。そのような背景を持つ学習者に自由に命題を創り上げる機会を与えれば、他の学習者が知らない語彙や表現を使用することは避けられない。筆者は出てきた語彙が知る必要もないと判断した時や、授業の残り時間が少ない時など説明をしない時があった。しかし、前述したように本稿で扱っている活動で引き出される答えとは学習者が自分の内部世界と深く関わって創り出したもの、より個人的なものである。このような答えだからこそ、教師はより大切にそして慎重に扱う必要があるだろう。また答えがより個人的なものであるがゆえに、学習者も他のクラスメートが作り出す答えに興味を示すのだろう。このコメントを読み、自分が行っている活動の性格を忘れてはならないと再認識した次第である。

3つ目の自由度とは、あらかじめ決まった答えがないために文法的に誤った文を作ってしまったても何度でも言い直したり、再度新しい命題に挑戦したりできるというものであった。正答を学習者から引き出すことは教室活動の目的の1つではあるが、それよりも大切なのは学習者が自らの力で試行錯誤しながら正しい文に到達する過程であるかもしれない。

### 3.3.5 他の活動との関連について (5.8% [N=7])

他の活動との関連について、活動は練習だけでなく導入部分でも使えるというコメントがあった。

- ・ (1) 学習者が文を作るためだけでなく、導入表現の例文紹介としてもこのスライドは非常によい。

どのような意味で導入時にも使えるというコメントを書いたか筆者の推測の域を出ないのだが、自分とは全く関連性の無い例文より学習者自身が感情移入しやすい例文の方が新しく学ぶ表現の意味機能が理解しやすいということ、また記憶にも残りやすいという意味ではないかと考える。<sup>(6)</sup>

他の活動との関連において、以下のような否定的なコメントもあった。

- ・ (1) 導入文法の用法をきちんと説明していない
- ・ (2) 想像力を使った活動に行く前に、もっと簡単な練習をしたほうがよい
- ・ (2) 創造的な文作成にはもっと単語練習が必要

これらは全て情意活動を行う前の準備不足を指摘しているものである。活動が自由度の高いものであるため、徐々に難度を上げていく必要があったのだが、筆者はその点の配慮が不十分であったと実感した。

また以下のように既習文型の練習が足りないというコメントもあった。

- ・ (1) 既習文型も一緒に勉強したかった

この活動では自由に既習表現を組み合わせながら練習することができるというコメントを先に見たが、このように積極的に既習文型を使おうとする学習者がいる一方、既習表現を積極的に用いようとしない学習者がいることも事実である。このような学習者には既習文型を導入表現と組み合わせることで表現できる内容が格段に広がることを意識的に伝えていかなくてはいけないと感じた。またこのコメントを受けて、筆者も既習文型をより積極的に取り入れていく必要性を感じた。

### 3.3.6 想像力について (5.0% [N=6])

想像力に関する肯定的なコメントには以下のようなものがあった。

- ・ (1) 想像力を使わせる
- ・ (1) 想像力を使うのは役に立った
- ・ (1) 想像力は話す能力向上に役立った
- ・ (1) 想像力を使って話す練習を普段からしていたので日本語ですばやく答えられるようになった
- ・ (1) 想像力を使うと、単語や文型が覚えやすかった

上のコメントから、想像力を使うことで話す能力や記憶力の点で学習効果があったと感じる学習者がいたことが分かる。

ここで筆者の想像力についての考えを述べておく。想像力と聞くと、空想に関わる能力、言い換えれば、頭の中に様々な絵を画像化・映像化する能力という捉え方をすることも多いだろう (White 1990)。しかし、筆者は想像力を様々な状況に対して柔軟性 (Egan 2005, 2007) を持って対処していく能力だと捉えている。ここでいう柔軟性とは社会的慣習、文化的規範、個々人の習慣的な考え方、外から得た情報などに強く囚われることなく自由に物事を考え (Takaya 2007)、新しい「何か」を創造する能力だと考える。そして、想像力とは認知領域・情意領域を含めた精神活動全般に広がっているもの (Egan 2007) で、思考が柔軟にまた円滑に働くための潤滑油的な働きを司っていると考え。思考が柔軟であればあるほど (=想像力があればあるほど)、提示場面に対して複眼的な見方ができ、様々な答え (命題) を創りだせるであろう。また思考が柔軟であると (=想像力があると) 何かを覚える際にも、情報をそのまま取り込むコンピューター的な覚え方ではなく、覚える対象に関連する様々な感情や経験などを呼び起こし、結びつけながら取り込むことができるので記憶の定着という点でもよい結果がでてくるのではないかと考える。

想像力に関しての否定的なコメントとして想像力を使って即座に命題を創り上げるのは難しかったという学習者が1名いた。

- ・ (1) その場ですばやく想像力を使って文を作るのは難しかった

学習者の認知だけでなく情意にも関わる活動では論理的思考だけで答えを導き出せないのも、より難しさを感じる学習者もいるだろう。しかしながら、前述したように、内面世界との関わりあいの中で答えを見つけ出していくこの活動の要求の高さが学習者の学習意欲を刺激していることも確かである。

### 3.3.7 活動の進め方について (5.0% [N=6])

活動は前述のようにパワーポイントで作成したスライドを用いている。活動の進め方は答えを考えついた人から自由に答えてもらう場合と、初めにペアで答えを出し合い、その後いくつかを皆の前で発表してもらう場合がある。いずれにせよ、教師は学習者からの自発的な発言を待つように心掛けている。そして出てきた発言に対してはできるだけ様々な問いかけをし、また他の学習者も引き込みながら話を膨らますようにしている。

また文を10（数は授業の進み具合、タスク内容などを鑑みてその都度臨機応変に変える）作ったら、次のスライドに進むというような指示を出す場合がある。10というかなり大きい数を設定している理由として2つ挙げられる。1つ目はできるだけいろいろな人の考え（内面世界）を共有したいという理由からである。2つ目の理由は学習者の心理的圧力を軽減するためである。少ない回数しか答える機会を学習者に与えないと、自分の文でその貴重な回数の1回を無駄にしたくない、良い文を言わなければならないという心理的圧力を感じるようである。そのため、皆で文を多く作らなければならないと分かると、それほど心理的圧力を感じずに普段あまり発言しない人も発言するようになる。

活動の進め方に関する肯定的なコメントとしては、指示説明を受けてからその場で命題を創り上げるという作業が会話能力の向上につながったとするコメントがあった。

- ・(2) その場で考えて言わなくてはいけないので、会話能力を高められ、役に立った

前述したように、正答が初めからある問いの場合、学習者が答えを作り出す過程は論理的思考が主体となる。本稿で扱っている活動は論理的思考に情意的要素を組み合わせたもので答えを創り出す過程はより複雑なものになり、その場ですぐに答えることは簡単なことではないだろう。しかし、実際の会話でも自身自身で新しい発話を創り上げ、相手との間に何らかの世界を形成していかなければならない。本稿で紹介している活動は長期間クラス活動に取り入れていくことで徐々にこのような能力を開発していく側面もあるのではないかと考える。

この活動を主に初級レベルで用いていることもあり、提示場面や指示内容を瞬時にかつ正確に理解してもらうために、多くのスライドで英語を用いている。これに関するコメントも1つあった。

- ・ (1) スライドに日本語と英語があったので、よかった

教室で教師が自分に何を求めているのか確信が持てない時、学習者は心理的な不安を感じ、活動そのものに集中できなくなるだろう (元田 2005 第 5 章)。特に情意に関わる活動をおこなう場合、前述したように学習不安は非常に大きなマイナス要因となることが考えられる。英語での指示・説明はその学習不安を軽減する方法の 1 つであると考え、行っている。しかし、これは学習者の日本語のレベルによって変えていく必要があるだろう。

活動の進め方に関する否定的なコメントには以下のようなものがあった。

- ・ (1) 1 つの場面で文をクラス全体で文を 10 個言わせるのは少し多い
- ・ (1) 学習者の自発的な発話を待つよりも指したほうがみな考える
- ・ (1) ノートをとる時間が必要なので、文を考える時間的な余裕がなかった

1 つ目に関しては筆者の考えをすでに述べたので割愛する。

2 つ目のコメントを書いた学習者は当てられるかもしれないというプレッシャーがないと何も考えないで座っているだけの時があったと書いていた。じっくりと内面と交流し命題を創り出す人もいれば即座に浮かんできた考えを言いたい人もいるだろう。また提示された場面によってすぐに命題が思い浮かぶ人もいればそれでない人もいるだろう。不必要な焦りを学習者に与えるのは避けたい。このような点で基本的に筆者はこちらから発言者を指名していくよりは自発的に発言するのを待つ方法を採用している。しかしながら、同じ人が何度も発言する場合、または即座に命題が出そうな問の場合などはこちらから指名することもある。

3 つ目のコメントに関して、授業中は活動に集中してもらいたいため、授業で用いたファイルはインターネット上 (ヤフーグループを使用) にその日のうちにアップロードし、学習者が自由に活用できるようにしている。しかしながら、コメントを見て分かるように、それでもノートを取るのを好む学習者もいるようだ。

### 3.3.8 クラス・およびクラスメートについて (4.1% [N=5])

この活動はそれぞれの学習者が自分の内面と意識的に交流する (内の交流) だけでなく、その結果を日本語という媒体を通して他のクラスメートに投げかける、つまり外の交流も行われる。この外の交流について、以下のようなコメントがあった。

- ・ (1) クラスを面白く [interesting] した
- ・ (1) クラスを楽しいもの [enjoyable] にした
- ・ (1) 他の学生の作った文を聞くのが面白かった [interesting]

この活動を通して、クラスメートがどのような考えを持っているのか、どんな性格なのか、等がよく分かり、クラスの雰囲気をよくし、クラスへの帰属意識やクラスでの存在意識を高める一因になっていると感じた。また他人の認識を自分の認識と照らし合わせることによって、自分という人間を再認識したり、または変容させていったりすることもあるかもしれない。活動がこのような自分自身への気づきにおいてもなんらかのきっかけ作りになればよいと考える。

クラスメートが作った文を楽しむだけでなく、自分も他のクラスメートを楽しませたいという意欲が高まったという学習者もいた。

- ・ (1) 他の学生を楽しませるために頑張りたくなる

田中・田中 (2003) は自分を表現するためにはメッセージの受け手となる他者の存在、他者との関わりが自己表現の大きな動機になっていると述べている。この動機には教師やクラスメートに認められたいという承認の欲求と、また自分のことを見せびらかしたいという自己顕示の欲求が含まれよう (辰野 2009)。他人の存在を意識して自分から何らかの能動的な働きかけをする。ここで行われていることは教室外での予行練習的な擬似コミュニケーションではなく、ある意味、真のコミュニケーションだと言えはしないだろうか。<sup>(7)</sup>

しかしながら、他の学習者を楽しませたいという気持ちが行き過ぎると、以下のようなコメントになってしまう。

- ・ (1) 時々他のクラスメートはばかげた [ridiculous] 文を作る

この点は他の学習者が不快感を与えない学習環境を提供できるように教師が注意をはらう必要があるだろう。

### 3.3.9 登場人物について (4.1% [N=5])

提示場面に「おにぎりくん」「プレスリーさん」などしばしば登場させるキャラクターがいる (図 16 参照)。



図 1 6

これに関するコメントとして、肯定的なものには以下があった。

- ・ (2) よく出てくる登場人物がいたのが良かった
- ・ (2) 面白かった [funny (1)/interesting (1)]

また否定的なものとして、登場人物の子供っぽさを指摘するものがあった。

- ・ (1) 登場人物は時々子供っぽかった

これらのキャラクターは何らかの学習効果を狙って意識的に用いようとしたわけではなかったのだが、学習者たちに意外に好評であったこともありしばしば登場させている。同じキャラクターを用いることで学習者が彼らに感情移入をし、学習意欲が高まるという利点があるかもしれない。しかし、用いられているキャラクターに対して否定的な意見を持つ学習者にとってはそのような効果は期待できない。キャラクター使用の効用についても今後の課題としたい。

#### 4. 結語

本稿では学習者からのアンケート調査結果を基に、筆者が現在行っている学習者の情意に焦点を当てた活動について考察した。そして、改善点はあるものの、この活動が情意・認知両側面において様々な利点を含んでいる可能性を示唆した。

今後の課題として既にいくつか挙げたが、引き続きこの活動を行い改良を加えていくことが目下最大の課題である。

## 注

- (1) 拙論（2006）では、ホリスティック教育の観点から自らの日々の教室活動を内省し、理想的な授業について論じている。
- (2) 梶田叡一は『情意面の評価を生かした授業設計－関心・態度の評価をめざして』（福岡教大附属福岡中学校 1982）の序章で人の学習活動は情意面での一定の条件があるときにはじめて認知的学習面での効率的な成果が現れると述べている。そして学習が全人格的なものだというを理解しておかなければ短絡的かつ表面的な学習観、教育観に陥ってしまうと指摘している。
- (3) Tomlinson（1998）は学習の障害となる不安や緊張を和らげる教材作成の重要性について述べている。
- (4) 縫部（2007：第3章）は優れた日本語教師の行動特性として5つの要素を挙げているが、その中に、カウンセリング・マインド（楽しく、ほっとする教室雰囲気醸成が上手である）と人間性（教職への自覚・熱意と学習者への配慮ができる）を挙げている。
- (5) 三浦・中嶋・池岡（2006）は学習者の話す意欲を高める原理の1つとしてギャップの原理を挙げ、学習者間のインフォメーション、オピニオン、イマジネーションのギャップの活用について述べている。本稿で考察している活動はこの内のイマジネーション・ギャップ活動に非常に近いと考える。
- (6) 導入の機能に関して、吉本は「導入とは、子どもたちの身にかかり、かれらの知的好奇心をゆさぶり、誘発するものでなくてはならない」と述べている。（子安・権藤 2006：143）
- (7) 『人間主義の日本語教育』の著書である岡崎等（2003）は教室空間を次のように捉えている。

教室を「フィールド」と見なすことができます。教室という名の「フィールド」は、いつも行く同じ場所でそこで対面する人々も同じです。しかし、冒頭に述べたように、授業のたびに毎回学習者についての新しい発見や気づきがあります。そして、大切なことは、より多くの現実的なものと向き合うようにするということです。教室を教室外で直面する現実のための準備の場所というふうに限定してしまわず、教室内においても本気になることやリアルであることが必要です。（2003：61）

## 参考文献

- 岡崎洋三・西口光一・山田泉編（2003）『人間主義の日本語教育』凡人社  
子安潤・権藤誠剛（2006）『学級の教育力を生かす 吉本均著作選集 4 授業の演出と指

導案づくり』明治図書

西郷英樹 (2006) 「調和ある授業へーホリスティックな観点からの反省ー」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』16号 (129-149頁)

西郷英樹 (2007) 「学習者の情意領域を意識した活動ー学習者の想像力を生かすー」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』17号 (29-48頁)

辰野千壽 (2009) 『科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法』図書文化

田中武夫・田中知聡 (2003) 『「自己表現活動」を取り入れた英語授業』大修館書店

縫部義憲 (2007) 『学校日本語教育の構築とホリスティック教師の発達』風間書房

福岡教大附属福岡中学校 (1982) 『情意面の評価を生かした授業設計ー関心・態度の評価をめざして』明治図書

三浦孝・中嶋洋一・池岡慎 (2006) 『ヒューマンな英語授業がしたい! : かかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインする』研究社

元田静 (2005) 『第二言語不安の理論と実態』溪水社

Egan, K. (2005) *An Imaginative Approach To Teaching*. CA: Jossey-Bass

Egan, K. (2007) Imagination, past and present. In K. Egan, M. Stout, K. Takaya (eds), *Teaching and Learning Outside the Box* (pp.3-20). New York: Teachers College Press

Arnold, J. (1999) Visualization: language learning with mind' s eye. In J. Arnold (ed), *Affect in Language Learning* (pp. 260-278). Cambridge: Cambridge University Press.

Tomlinson, B. (1998) Introduction. In B. Tomlinson (ed), *Material Development in Language Teaching* (pp.1-24). Cambridge: Cambridge University Press.

Takaya, K. (2007) Imagination in the context of modern educational thought. In K. Egan, M. Stout, K. Takaya (eds), *Teaching and Learning Outside the Box* (pp21-41). New York: Teachers College Press.

White, A. R. (1990) *The Language of Imagination*. Oxford: Basil Blackwell.

(hsaigo@kansai.ac.jp)

資料. 学習者からのコメント (原文: 活動とは関係の無い部分は削除した)

- ・ Yes, I very much enjoyed the activities you used in class. It helps not to use a textbook and instead use vocabulary we know to come up with our own answer. Your drawings are very interesting and I look forward to coming to class every day. The drawings tend to make

people smile and laugh, which makes them want to participate in class. Using my imagination has helped me improve my speaking a lot. Please do not change anything, everything is perfect.

- I really enjoyed the teaching style of this class, and I especially thought the slides were engaging and forced us to think on our feet. The only thing I can think of to improve them would be to call on students instead of waiting for responses. Sometimes, if I didn't feel like thinking, I was able to just sit and doze. If everyone had an equal chance to be called on I think everyone would be more aware and engaged in the exercise and the class. Otherwise I think this class is incredibly well structured.
- The slides in your class helped me very much because I am a visual learner and when teachers only use audio-aids it doesn't stick with me long-term. The helpful things in your slides are the pictures (also help remember). Since the pictures are funny it makes the learning process more fun and therefore easier. Also, having both English and Japanese on the slides is helpful. The vocabulary introduced in this class was abundant, and it may have been beneficial to have activities in class that incorporated those.
- I enjoyed these activities, but sometimes it was hard to think of what to say. Maybe if you added a few suggestions of what to say, it would be helpful when students draw a blank. But it was also interesting to hear what students came up with. I do think that this practice helped reinforce the grammar.
- I think the activities depicted in the slides were effective because they were funny as well as interesting. In my opinion, the situations depicted in the textbook are sometimes very vague and difficult to understand what is happening. Yours on the other hand are engaging enough to hold my interest during the class. Also, as a student, I really appreciate the fact that you use drawings that you have personally drawn. To me, it shows that you are very concerned with effectively conveying the messages in the lessons. Throughout class this semester, I always looked forward to the slides.
- I thought the slides were very entertaining and helpful. They kept my attention during class and I was able to learn from them. The situations depicted in the slides were usually ridiculous but it was a good thing because they were interesting and made me actually want to learn the grammar point. I liked how there were recurring characters too, like onigiri-san, Presley-san, and Mary-san. They added to the fun of the slides! Either way, the slides were a great starting point for in-class examples and us making up our own examples. The only thing I didn't like was the 'free-for-all' in the beginning of the classes where everyone read aloud at the same time. It made me feel intimidated and didn't help me at all.
- I didn't particularly like the questions that required the use of imagination because I find it difficult to think of things to say, especially with new grammar we are just learning. However, even though I don't like it, I do acknowledge that learning to come up with things to say on the spot is probably beneficial to developing conversation skills. Having little stories involved in the examples is helpful though. It makes it easier to remember.
- I think the exercises we did in the class were very helpful, although sometime it was hard to practice the Japanese grammar we had just learned that class orally. It might have been helpful to spend a little time in class to spend some time practicing review grammar orally. This may be a little difficult to do considering the amount of grammar what we are required to finish in this class. Besides that, your examples used in your power points were very helpful, especially because they provided an image with the grammar. Whenever I use Japanese in real life situations, I always remember your image in your power points. I recommend doing it for your next class! Thank you for a very helpful and interesting class!

- I am a visual learner, so having slides that had pictures and various examples was very good for me. I especially appreciated that they were available online because it was very hard to copy notes and take in everything you were saying at the same time) in class. The drawings and examples on the slides were often funny, which made class even more enjoyable. Last year, I only knew up to level 9 Genki and now I done both Genki I & II (though I don't know a lot of the kanji anymore). I've learned so much and actually remember it. Thank you!!
- I think this idea is good because you can try to use vocabulary. In the books its often limited to fill in the blanks or you had to use always one specific word. With the imagination activities we had more freedom. But sometimes it was too much 10 sentences for one picture in my opinion. Definitely a good idea.
- I thought the slides would be fine if I were more prepared to do the exercises. Doing them right after seeing the grammar for the first time was very difficult. Maybe review the grammar on a different day or give homework practicing it before the activities.
- The slides are very entertaining and make the class more enjoyable, however they do not always explain the usage in them. They provide a specific example whereas the genki book says how to use each grammar point in every situation. If students already know the grammar them they're great but they're hard to learn from.
- I thought that your method was very effective in getting us to think critically about our language usage. It made class interesting, but I think that some of the situations depicted were kind of disturbing. Really though I feel like we learned useful Japanese through your examples. Maybe even more vocabulary emphasis is some of the slides. Vocabulary is the hardest to remember, I think. Thank you for working so hard for us! You are always appreciated!
- In general, I thought the exercises were very helpful. Sometimes I was unfamiliar with the situation, so I did not know what to say, but they were great for practicing the grammar. Your onigiri-san made learning grammar very fun.
- I believe that the activities were very useful, and that using our imaginations to come up with examples is very useful. However sometimes it is hard to come up with examples on the spot. However coming up with examples forces us to think and use the new grammar that we just learned immediately. I like your teaching style.
- I think that if the slides weren't so funny, it would make learning from the slides tiresome. But since most of the slides were accompanied with funny pictures you drew, I personally felt that I wanted to learn. I also think that the situations that were presented were useful in helping me to think of ideas. It would be hard to just think of a 「は」 structure without seeing an example or a situation to help guide us.
- They were great, especially the illustrations! Honestly, such imaginative situations are fun to come up with, making the activity more interesting. Every day things get to be a pain to answer. Can you share this with the other professors? Coming up with things for imaginary people to do is much more fun than writing essays about yourself.
- I did like the activities but at the same time I would have liked to receive more tasks dealing at the same time with both new as well as older grammar points we've learnt, because later in the tests that is what we were asked to do. Pictures on the slides were helpful, since they've helped remembering some grammar.
- I think that the activities were very useful. Since I almost never look at the Genki exercises it was helpful to actually use new grammar in a (strange) situation. It was also helpful because we had to say the answers out loud instead of just thinking of them or writing them

down. Having strange pictures/situations was also (surprisingly) helpful since it actually made the activities fun.

- I think the slides you made were helpful in leaning Japanese. I really enjoyed learning, because I know you tried hard to make connection between students, by making many interesting drawings on the slides. I think it really worked drawing attention to the presentation and helped understanding. Overall, I really liked your drawings!!
- I personally enjoyed your class very much. Most of time, those class activities were interesting and funny, that helped me remember easily about the grammatical patters. However, everyone have different levels of Japanese, which results in variety of new vocabulary that makes the class confusing or difficult. So, I would like you to point out those words and write then down on the blackboard thus, later I can go back and look up the dictionary. Sometimes, the imagination is way too far from the reality, which I felt difficult to think of examples. None of them was boring to me but interesting. I really enjoyed the class thank to your teaching although the level of class might be higher than I was supposed to be in.
- Honestly, I loved the slides we had in class. They were really funny and using my imagination to answer the questions helped me remember the vocabulary and structures. It also taught me to be able to answer questions in Japanese more quickly because I learned to make-up creative answers to the slides. Also, the funny drawings helped keep me engaged and interested in what we were doing. I really enjoyed this part of class and hope you will keep doing it. The light atmosphere certainly makes it a lot more enjoyable to come in and learn.
- I think they are a good learning tool, but it is difficult to improvise sentences and examples. In most cases I could understand the grammar, but could not participate in class because I don't have an imagination for things like that! Otherwise, I like them.
- I really enjoyed the use of slides in your presentations. Not only were they hilarious (which kept my attention) but I honestly believe they were a great way to practice using the new grammar forms and vocabulary in different situations. I was often inclined to participate because I wanted to add a new funny example to the class, but at the same time I was practicing the grammar forms and developing my own sentences. They also inspired me to want to try and combine various grammar patters into the same sentence, which challenged me in the process. When you can make a class both entertaining AND informative, I think it is the best way to learn. (I also thought the illustrations were hilarious. You should start your own manga about Onigiri-san)
- The activities we did in class, introduced by the slides, really made me think – even if I didn't volunteer my own example. I think the slides were also good study helpers, once again making me think of a situation and a proper response. Also, the slides are funny! I can't think of anything truly negative to comment upon.
- Activities like these that require information are extremely helpful and interesting. This gives an application to grammar structures, the more outlandish the better. Trying out new patterns in this manner allows for trial and error. I like your drawings especially because I think they trigger imagination to play around with new patterns. Definitely keep these! These are the most helpful exercises to find applicable uses for new grammar.
- I enjoyed the slides because they forced me to think and use all the Japanese I have learnt. It forced my not to use simple Japanese and to use my imagination and construct complete sentences. Also all the slides were humorous creating a relaxed atmosphere, allowing me to feel comfortable speaking Japanese. It was easier to think of silly responses + made

Japanese a lot of fun to learn + practice.

- I think the exercises we did in class were helpful in applying what we learned in class. Some of the exercises were a little farfetched and you couldn't really use in everyday life, but it made it more interesting and exciting to come up with sentences like what the devil would force me to do. I think maybe a few more exercises with practical uses of the new grammar would be helpful, but aside from that you should definitely keep doing the exercises you're doing.
- I enjoyed the slides and the odd situations. I think that they help us a lot because if we laugh, we are more likely to remember it. I often use situations like this to help me study for the tests. It may not help me with remembering words, but at least I feel confident that I understand the grammatical structure. Even though I struggle with vocabulary (that's my own fault), at least be remembering the slides, I know in what order the parts of the sentence go.
- I think it is really great to make student practice in class, but maybe there should be more time spend on vocabulary. Because it is hard to be imaginative when you don't know a lot of vocabulary. I think that the best way to learn is to repeat and repeat so that it will stink in our head. The class was really fun thanks to you, keep up the good work.
- I personally think the teaching tools could go either way, depending on the context. On occasion, one subject (grammatical structure) was covered in good detail using helpful examples as teaching tools...however, sometimes a subject was covered much too quickly. I am a rather slow note taker, since I like to have time to process information (which is easiest for me by writing things down), but the faster a certain subject was covered, the less time I had to take notes, and therefore I began to rely on the slides for studying, which was only helpful when a good amount of examples were available within the PowerPoint. I personally have trouble coming up with examples on the spot, mostly due to my note-taking practices – and I know many other students like this. I would suggest just taking a bit more time with the slides in the future. You present them in an interesting way, but the pace is just a little hard to follow.
- I like the slides, as well as having to make up situations because that's more like real life, the textbook isn't always going to be in front of me. It's good to try and use what I know, and apply them to the different situations. However, sometimes it would be better to have real-life situations, for extra practice. Also the drawings keep me entertained throughout class, which is also good cause learning should be fun I think. I really enjoyed being in your class, and like the slides, they make learning fun.
- I think the use of interesting slides helps to put the grammar forms into context, but sometimes the situations are too strange to be useful for daily life situations, Also, sometimes since we go through the slides so quickly, they all blend together, and then the funny situations are hard to remember because there are so many of them. I appreciate the time you put into the slides.
- The best part of the slides is the fact that the examples given are interesting. Using somewhat college humor is very important. The fact that we are older and what to take about things like kissing during date and funny stories about time when we were drunk or had to use the bathroom really had made it fun. I don't know who draws the picture, but they're simple and fun to look at. As for the content itself, it was always clear for me personally because of the way context in separated on each slide. Plus, being a visual learner, it is so helpful that there are picture.
- I always liked the slides because they were funny – it made what could have been boring

grammar becomes entertaining. It makes it easier to come to class when you don't know what you are going to see that day. The best thing about the slides was the drawings. It is easy to build off of the slides by inserting an own examples into the grammar patters. The only bad thing is sometimes people like to say ridiculous – and somewhat disgusting – examples, and it is hard to follow these examples with “Mary brushed her teeth; etc. Otherwise, the slides are an excellent tool.

- Stick figures are interesting and funny but can come off as childish sometimes.
- The slides and examples were usually good and helpful, through sometimes it was difficult to make up a sentence so fast – because my imagination doesn't always work so early in the morning ... The I felt stupid if I didn't make a good sample sentence, even though I knew how to use the grammar and structure. So maybe sometimes time was too little time to think. This may also be because I'm not a native English speaker, so it takes me a bit more time to read the explanations (in English), since I have to translate them all into my own language in my head before fully understanding them. But it's very useful that the slides are in the internet, so I can read/review them after class by myself.
- The situations are funny and easy to work with. In extreme situations described in the sheets it also stimulates the student to come up with funny answers.
- I very much enjoyed the in-class PowerPoint presentations. They were funny 不明 to good examples. They are excellent. Because they are so unusual + funny, they are very easy to learn + be creative with. Definitely keep using them in class.